

第7回平和市長会議総会 閉会式

2009年8月10日(月) 14:30~15:00
長崎ブリックホール国際会議場

進 行

田上富久(平和市長会議副会長、長崎市長)

ナガサキアピール審議経過説明

秋葉忠利(平和市長会議会長、広島市長)

ナガサキアピール朗読

ドナルド・L・プラスケリック(アクロン市長・アメリカ)

ロバート・ハーヴェイ(ワイタケレ市長・ニュージーランド)

秋葉忠利(平和市長会議会長、広島市長)

参加者代表挨拶

リュック・デハネ(イーペル市長・ベルギー)

閉会挨拶

田上富久(平和市長会議副会長、長崎市長)

秋葉忠利(平和市長会議会長、広島市長)

開会

平和市長会議副会長 田上富久（長崎市長）：

ただ今から、第7回平和市長会議総会の閉会式を始めます。

ナガサキアピール案の提案

平和市長会議副会長 田上富久（長崎市長）：

初めに、ナガサキアピール起草委員会委員長を務めていただきました広島市の秋葉市長から、ナガサキアピールの審議経過についてご説明をお願いいたします。

平和市長会議会長 秋葉忠利（広島市長）：

昨日の夜遅く、起草委員会を開きました。起草委員会は、平和市長会議の役員都市から成り立っています。最初の予定時間以内に起草委員会を無事終了することができましたけれども、基本的には、これまでの平和市長会議の様々な活動、歴史等を要約した内容と、今後の平和市長会議の活動について、できるだけ簡明に、しかもアピール力のあるような内容を作るということで、各委員の協力をいただくことができました。

スタッフの皆さんが、大変長い時間をかけて、構成としても非常に素晴らしい内容の原案を用意してくれましたので、内容についてはそれほど異論が出ずに短時間で審議を終了することができました。特に大きく意見が分かれたところはありませんでした。

ということで、私の報告はこのくらいにさせていただいて、実際に成案として準備されたナガサキアピールを聞いていただくことによって、起草委員会の総意をご理解いただくことがいちばん近道だと思います。簡単ですが、報告をさせていただきました。（拍手）

平和市長会議副会長 田上富久（長崎市長）：

ありがとうございました。

それでは、これからナガサキアピールの案を3人の方に朗読していただきたいと思えます。アクロン市のドナルド・L・プラスケリック市長、ワイタケレ市のロバート・ハーヴェイ市長、広島市の秋葉市長にナガサキアピールを朗読していただきます。

ナガサキアピール

私たち世界33カ国134都市・26団体の代表は、長崎市で開催された第7回平和市長会議総会に参加し、「核兵器廃絶を私たちの手で！－2010年を「ヒロシマ・ナガサキ議定書」採択の年に－」を基調テーマに議論を重ねた。

2003 年以來、平和市長会議は 2020 年までの核兵器廃絶を目指して積極的にキャンペーンを展開してきた。私たちは国連が 4 度目の「国際軍縮の 10 年」をこれから半年足らずのうちに開始することを決定したことを歓迎する。平和市長会議は、各国の指導者及び市民に対し、この軍縮の 10 年（2010 年～2020 年）に対する認識の向上を推進し、核による絶滅の脅威から自らを解放するための、かつてない決定を行うよう呼びかける。

核兵器のない世界への最も確実な道筋はヒロシマ・ナガサキ議定書に明記されている。ゆえに、私たちは、核不拡散条約（NPT）締約国に対し、ヒロシマ・ナガサキ議定書の採択及び、軍縮の 10 年での誠実な実施を求める。この点に関して、私たちは日本の特別な役割に注目する。広島と長崎は日本の都市である。唯一の被爆国として、日本は核兵器のない世界に向けたグローバルな運動を主導していくべきである。このための最も効果的な方法は、ヒロシマ・ナガサキ議定書を明確に支持していくことである。

NPT 再検討会議、ジュネーブ軍縮会議、国連総会のいずれかを通して、国際社会は核兵器のない世界に向けての積極的な交渉を 2010 年に開始しなければならない。私たちは志を同じくするあらゆる個人、団体、国家と緊密に連携し、この重要な歩みを確実に進めていく。国連事務総長の 5 項目の計画、特に核兵器条約に関する交渉開始の卓越性を歓迎する。同氏の主導で、2009 年 9 月 21 日の国際平和デーが、「WMD : We Must Disarm ! (大量破壊兵器の軍縮を!)」のテーマを掲げていることに注目するよう各市長に呼びかける。

各市長は既にグローバル化及び世界的景気後退が市民に及ぼす影響に対処しており、2009 年 4 月 5 日にプラハでバラク・オバマ米国大統領が「それ（核爆発）がどこで発生しようとも、世界の安全、安全保障、社会、経済、そして究極的には私たちの生存など、その影響には際限がありません。」と発言したことは正しかったと承知している。このただならぬ脅威に直面して、オバマ大統領は私たちに「21 世紀において、世界中の人々が恐怖のない生活を送る権利を求めて共に戦う」よう呼びかけた。私たちの心からの答えは、「もちろん、皆で協力し合えば核兵器を廃絶できる」ということである。広島・長崎両市の主導により、加盟都市は既に、核の脅威からの解放を求める世界の大多数の国々や人々を指す「オバマジョリティ（Obamajority）」という言葉を採用している。

市民の生命と繁栄を守ることが私たちの崇高な責務である。そのために、私たちはグローバルな民主主義を育み、大多数の市民の意思が国際的意思決定に適切かつ効果的に反映される方法を模索しなければならない。ゆえに、平和市長会議は、各国政府、国連、国際機関に対し、以下の行動を確実に実施することを強く求める。

1. 2010 年 NPT 再検討会議でヒロシマ・ナガサキ議定書を採択し、2020 年までの核兵器廃絶の実現に関する多国間協議を、ジュネーブ軍縮会議において直ちに開始するか、あるいは 2010 年国連総会において開始すること。
2. すべての軍に対し、各自治体の保全を尊重し、人口密集地域における爆弾の使用の禁止を要請すること。（非国家主体に対しても同様の行動を期待する）。

「都市を攻撃目標にするな！」

3. 人権を擁護し、飢餓、貧困、差別、暴力、環境破壊などの地球的規模の諸問題解決に向けて誠実かつ速やかに取り組むこと。
4. 京都議定書及び、ポスト京都議定書の合意事項に従い、地球温暖化に対する取組みを着実に継続的に推進すること。
5. 軍事費から、平和推進・飢餓の軽減・難民支援・環境保護などの国際社会が直面する諸問題の実質的解決のために資金配分を転換すること。
6. 都市の意思が定期的、体系的かつ直接的に国連決議に反映されるような、新しい仕組みを創出すること。

平和市長会議は、互いに協力・連携して特に以下のことを重点的に取り組むことをここに宣言する。

- I 世界の指導者、特に核保有国の指導者に対し、2010年に広島・長崎両市を訪問し、核兵器が人類に何をもたらすのかを自らの目で確認するよう要請する。
- II 増加する加盟都市間の連携の向上を図り、核兵器廃絶のための行動力を強化する。
- III 平和市長会議の活動を幅広い国際協力を通して推進するため、各国の政府、自治体、NGO等と緊密な連携を構築する。
- IV 被爆者のメッセージを、人類の最も貴重な知的財産のひとつとして世界に伝えていくために、「広島・長崎講座」を開設するよう世界の教育機関に呼びかけ、平和文化を広めるため、社会のあらゆるレベルで「平和・軍縮教育」を推進する。

私たちは、2020年までの核兵器廃絶を実現するため、全力で行動することを誓うとともに、上記についてすべての真摯な団体と協力して取り組むことを決議する。

ナガサキアピールの採択

平和市長会議副会長 田上富久（長崎市長）：

ただ今3人の市長から、昨晚作成しましたナガサキアピール案について朗読していただきました。

ナガサキアピールの採択について承認される方は拍手をお願いいたします。

（拍手）

ありがとうございました。ただいまの拍手をもって、このアピールは「ナガサキアピール」として、第7回平和市長会議総会の集大成として採用されることになりました。このアピールは、すべての加盟都市、各国政府、国際連合等の国際機関に送付いたします。

参加者代表挨拶

平和市長会議副会長 田上富久（長崎市長）：

今回の平和市長会議総会には33カ国の134都市、26団体にご参加いただきました。心

からお礼を申し上げます。

ここで、ご参加いただいた皆様を代表して、副会長でもありますイーペル市のリュック・デハネ市長にお言葉をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

リュック・デハネ（イーペル市長・ベルギー）：

会議の終了にあたり、全ての方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。

世界の反対側にあるにもかかわらず、色々な理由から、ここは本当に私の故郷のように感じます。理由の一つは、8月6日の広島での平和式典、9日の長崎での平和式典に出席したことです。このような式典は他に比類ないものです。世界中の人々が死者を悼むのは良いことだと思います。これをただ過去の記憶として残すだけでなく、過去から学び、今後、こういったことが二度と起きないようにしなければならないと思います。おそらく皆様も同じ意見だと思います。

労働組合の方が、学生たちの訪問によって人生が変わったという話をされました。私自身も、日本に来て、そのように感じています。ここでの歴史的教訓、原爆が広島・長崎に投下された事実を知り、そこから学び、それを伝えていかなければならないと思っています。ここは自国から遠いところですが、被爆者の話を聞くことは、事実を目の当たりにすることであり、それは私にとって大きな教訓になりました。おそらくここに出席されている方も同じように感じていると思います。決して忘れられない記憶となるでしょう。私自身も決して忘れません。これこそが、平和市長会議が取り組むべきことだと思います。歴史から学び、こういったことを今後二度と起こさないということに献身しなければなりません。

開催都市の田上市長に感謝いたします。開催都市として、普通では経験できないような素晴らしい準備をしていただきました。同時に、会長を務めていただいている秋葉市長にも感謝したいと思います。われわれは、いつもこのようにおもてなしいただき、全てのことが円滑に動き、会議が進められました。

基調講演をされた方をはじめ、発言者の方々にも感謝したいと思います。どのセッションでも学ぶところがたくさんありました。参加者の皆様も同意されると思います。

大使の方々、参加者の方々、同僚の市長の方々、皆様の参加に感謝いたします。皆様全員に感謝いたします。第7回平和市長会議総会に参加して下さった方、特に議論に参加して下さったことに感謝したいと思います。

主催者の方々にも特別に感謝したいと思います。大変な仕事だったと思います。この会議期間だけでなく準備期間も大変努力して下さったと思います。会議中、日夜を問わず働いていただいたことに感謝いたします。

一緒に過ごさせていただいたこと、そしてご貢献にもう一度感謝したいと思います。

これからの10年、色々なことをたくさん行っていかなければなりません。昨日の発言者が言われましたように、われわれは2020の目標に達するまで続けていかなければなりません。

ん。帰りましたら、すぐ活動を開始したいと思います。

どうもありがとうございました。(拍手)

閉会挨拶

平和市長会議副会長 田上富久 (長崎市長) :

最後に、開催地の市長として、今回の会議はまさに手づくりの会議で、皆様いろいろな失礼なことがあったかもしれませんが、お許しいただきたいと思います。

開催地の市長として、今回の総会運営に貢献していただきました講演者の皆様、チェアパーソンを務めていただいた皆様、パネリストの皆様に心から感謝申し上げます。また、ご参加いただきました各都市の代表者の皆様、各国政府の大使館の皆様、NGO の皆様、本当に遠いところからお越しいただきまして、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。さらに会議の運営をお手伝いいただきましたボランティアの皆様、NGO の皆様、通訳の皆様、たくさんの方々の長崎市民の皆様にも協力していただきました。本当にありがとうございました。

少しハードなスケジュールになって、60年以上の時間をかけて復興してきた長崎の町並みや自然やおいしい食べ物をたくさん味わっていただく時間が少し足りなかったかもしれません。もっと長崎の町を歩きたかったという方は、是非何度でも長崎にお越しいただきたいと思います。

今回の出会いと、ここでまた絆が強まったネットワークが、これから核兵器のない平和な世界をつくっていく大きなエネルギーになることを心から祈念し、信じております。

最後に平和市長会議の秋葉会長から一言ご挨拶をお願いいたします。

平和市長会議会長 秋葉忠利 (広島市長) :

同僚の市長の皆様、平和活動家の皆様、全ての参加者の皆様、会議を成功に導いた皆様のご貢献に感謝したいと思います。最後まで成功裡に会議を開催でき、非常にうれしく思っております。

田上市長に感謝いたします。長崎のボランティアの皆様には感謝いたします。同時に、非常に献身的に会議の運営に当たってくださった方々に感謝したいと思います。どうもありがとうございます。

皆様が、素晴らしい情熱豊かなアピールを採択して下さったことに感謝したいと思います。イタリアではこういう場合には「情熱・パッション」という言葉は使わないと昨日の起草委員会で注意されましたが、非常に情熱豊かであったと思います。

また、参加者の方々から色々なご意見をいただきました。それはあたかも交響曲のようだと言えます。平和と2020年までに核兵器を廃絶することをテーマにして、バイオリンを弾く人、ドラムを叩く人、踊る人までいました。誰のことを言っているのか、皆様お分か

りかもしれません。しかしながら、非常に素晴らしい交響曲ができ上がり、その結果がナガサキアピールになったと考えています。

このナガサキアピールを多くの人々に届けたいと思います。そして、「ヒロシマ・ナガサキ議定書」が来年採択されるように願っています。更に、われわれの2020ビジョンキャンペーンの核廃絶という目標を遂げたいと考えています。世界中の人々の協力と共に、であります。

このような会議はパッチワークのようなものであると考えています。つまり、皆様それぞれが貢献しているのです。目に見えないところにも努力があります。それぞれが美しい端切れを持ち寄って作るわけですが、共通の関心事項があるからこそ集まることができるのです。また、パッチワークのそれぞれのピースが別々の特徴を持っていることが重要で、そうするとパッチワークが美しいものになります。素晴らしい温かい希望が生まれるわけです。それぞれ異なる皆様が、精神的な、或いは知性豊かなアイデアをインプットし、それを縫い合わせることによって、われわれの水平線が上がり、われわれのビジョンが更に広がり、同時により温かいものになるでしょう。この会議と同じように、皆様は手を広げて、また美しい端切れをつなげていただきたいと思います。そうすると、来年にはもっと美しいパッチワークができ上がり、平和が更に広がると思います。そして、これを更なる出発として、核廃絶に向けて2020ビジョンキャンペーンを進めていきたいと考えています。

心より感謝したいと思います。広島での平和宣言の最後の部分を申し上げます。

“We have the power. We have the responsibility. And we are the Obama majority. Together, we can abolish nuclear weapons. Yes, we can.”

(私たちには力があります。私たちには責任があります。そして、私たちはオバマジョリティーです。力を合わせれば核兵器は廃絶できます。絶対にできます。Yes, we can.)

どうもありがとうございました。(拍手)

閉会

平和市長会議副会長 田上富久 (長崎市長) :

ありがとうございました。この会議の終わりというよりも、これから始まる素晴らしい旅に向けてのはなむけの言葉であったようにも思います。

来年2月、長崎で第4回核兵器廃絶地球市民集会が開かれます。また、是非お越しいただきたいと思います。何度も来るのが面倒な方は住んでいただいても結構です(笑)。来年5月のNPT再検討会議でまたお会いしましょう。そして、4年後の広島で行われる予定の第8回平和市長会議総会でも、また皆様にお会いしたいと思います。

歓迎レセプションの時に飛び入りで壇上で平和市長会議混声合唱団が歌わせていただきましたが、今回も少し予定を変更し、皆様との再会を祈って、メッセージの舞台を用意させていただきました。

皆様、本当に楽しい4日間、素晴らしい4日をありがとうございました。(拍手)